

2017年度

事 業 報 告

自 2017年 4月 1日

至 2018年 3月31日

公益財団法人 正 力 厚 生 会

〔がん患者支援事業〕

＜患者団体への助成＞（継続事業）

全国のがん患者会や支援団体などの中から、資金不足からイベントやプロジェクト、研究などができない団体を一般公募し、専門委員会の審査を通過した団体に活動資金を助成する事業です。全国の29団体に助成しました。

助成金は、難治がんや希少がんの交流会や講演会、若者向けのがんと就労に関する啓発用冊子の作成、小学校高学年の子供たちに「がん」を教えるボランティア「がん教育支援員」の養成や育成～といった患者団体の活動費に充てられました。

＜医療機関への助成＞（継続事業、新3か年計画の最終年度）

2012年度から支援してきた「地域における緩和ケアと療養支援情報プロジェクト」（国立がん研究センター、がん研究会、東京大学死生学・応用倫理センター、帝京大学）は、2017年度が最終年度となりました。

同プロジェクトは第一期（2012～14年度）で在宅療養支援ガイドの小冊子を制作し、第二期の2015年度からは、この冊子も活用しながら全国各地で一般市民向けのフォーラム、専門職向けの研修会を重ね、在宅療養の普及と啓発に取り組んできました。

2017年度は一般向けフォーラムとして7月23日に「がん医療フォーラム出雲」（島根県出雲市）、10月29日に「がん医療フォーラム柏」（千葉県柏市）、2018年3月3日に「がん医療フォーラム香川」（香川県香川市）を開催。いずれもほぼ満席となる盛況でした。

また、専門職向けの研修会としては、10月31日に「緩和ケアを学ぼう会 特別編 鶴岡・三川」（山形県鶴岡市）を開催し、活発な意見交換がなされました。

フォーラムの様子は動画で記録し、正力厚生会のホームページと同プロジェクトのウェブサイト「がんの在宅療法」で全編視聴できるようにして、多くの方々と情報共有を図れる体制も整えました。

6年間のプロジェクトでは、①多職種連携の重要性の再確認②地域住民の理解と協力の重要性③地域の次世代を担う若者の人材育成④これらの情報の共有と発信の重要性——などの成果が得られました。

<読響ハートフルコンサート>（継続事業）

がん患者や家族たちの心を癒すため、読売日本交響楽団員を全国各地のがん診療連携拠点病院に派遣して、弦楽四重奏などを披露しました。2017年度は、一般公募に応じた医療機関の中から、地域バランスなどを考慮して決定された全国8会場で開催しました。

各会場には、患者とその家族や医師、看護師などの医療従事者約100人の聴衆が集まりました。会場からは「弦楽四重奏を生で聞くのは初めてだったが、知っている曲でも響きが違い、とても良かった」（74歳男性患者）、「治療以外に、どう患者をサポートするかを重視しているので非常に有意義な時間だった」（病院長）などの声が寄せられました。

開催会場は下記の通りです。各コンサートの様子は読売新聞の各地域版に掲載されました。

- | | | |
|--------------|-------------|------------|
| ① 大館市立総合病院 | 2017年4月17日 | (秋田県大館市) |
| ② ちばなクリニック | 2017年5月23日 | (沖縄県沖縄市) |
| ③ 山形県立新庄病院 | 2017年7月21日 | (山形県新庄市) |
| ④ さいたま赤十字病院 | 2017年9月26日 | (埼玉県さいたま市) |
| ⑤ 長岡赤十字病院 | 2017年10月13日 | (新潟県長岡市) |
| ⑥ 大阪赤十字病院 | 2017年11月18日 | (大阪府大阪市) |
| ⑦ 公立甲賀病院 | 2017年11月28日 | (滋賀県甲賀市) |
| ⑧ 医療法人住友別子病院 | 2018年1月15日 | (愛媛県新居浜市) |

以上